

## 8 古代尺説と住居学（その2）

### 三千分の一地図上の藤原京の古代尺による復原 と条里の六百分の一地図上の古代尺復原について

広島大 加藤 泰

広島県庁建築課 追中富久壮

その一説に続いてその新らしい研究点の細部を主に説明したい。地割りの古代尺文献としてはその一の説明に譲るが、具体的には条里条坊なる従来一応認められ乍ら具体的には殆んど解決されていない問題が基本的に解決できることの面からも立証できる。殊に藤原京復原は古代尺単位を使わなければどうしても復原できないのである。加藤復原説の基本条件は薬師寺寺院地十六坊四分の一の内六坊が本薬師寺寺院であることに基づくので、その四分の一の解釈は足立博士説を訂正するものである。この東西塔心の二点の固定点を得て、兼て喜田博士により立証された十二条四坊制を条件とし、東限は中つ道の延長を動かず、一方藤原宮発掘の結果として本薬師寺を右京四坊とする他なく、さらば古代4尺方四十丈割り又古代尺8000尺16割りの半端を道路部分とみる仮説が最も適当であり、これを以って寺院地6坊を定め四条村に基づく四条路線等についても適当な田路線との一致が証せられることを図上説明したい。藤原京復原は近来具体的な発表は加藤説の他にないのであるが以前1万分を五千分に拡大したものより、三千分によってより確かめられた結果で、全体計画としては具体的には結論されたと云えると思う。（建築学会に従来2回発表し、これは第3報に当る）その一と共にそれ等の評にも答えている。この理論は他の条坊割り、又条里割りにも共通適用できることを条里につき説明する。